

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇「下水道展 '14 大阪」に出展（塩化ビニル管・継手協会）

## ■随想

◇日本のお祭りシリーズ（その14）（終）

－江戸川区幟祭りと御代田竜神祭り－

関東学院大学 織 朱實

## ■編集後記

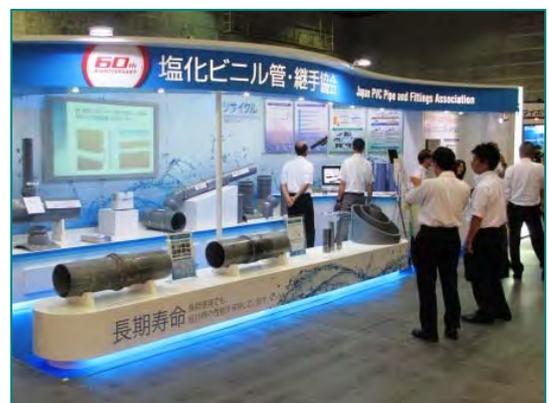
## ■トピックス

## ◇「下水道展 '14 大阪」に出展（塩化ビニル管・継手協会）

下水道展は7月22日～7月25日まで、大阪のインテックス大阪で開催されました。（主催：（公社）日本下水道協会／後援：国土交通省、環境省、経済産業省、文部科学省ほか）下水道に関する設計・測量、建設、管路資器材、下水処理・維持管理など幅広い分野の最新技術、機器等を一堂に集めて紹介する業界最大の展示会です。

今回の展示では、地震やゲリラ豪雨対策がひとつの重要なテーマとなっています。耐震性を高めるために可動性を高めた管や継手、管路システム、復旧技術、災害時における仮設トイレの配管システム、「雨水ます」や「雨水浸透ます」など様々な技術や取り組みが展示されました。地味な世界ではありませんが、設計、工法には新たな工夫が多々取り入れられており、技術進歩が感じられます。また、多くのブースで、老朽化した管渠や管路を掘り返さず改修する非開削での管更生について多くの企業が取り上げていました。これも生活や経済活動に支障をきたすことなく、経済的にインフラ更新をせねばならないニーズにこたえようとするものです。

塩化ビニル管・継手協会は、大きな口径の塩ビ管を埋設してから30年・35年が経過した下水用塩ビ管（掘上管）や、25年から52年を経過した給水管や排水管を展示していました。表層には変色があっても、管としての性能は何十年と使用された後でもほとんど劣化しないことがわかります。それらが回収され、リサイクル三層管として再生され、また、何十年と使用されます。これほど長寿命で、リサイクルし再生されて同じ用途の製品に生まれ変わるのはすごいことです。



塩化ビニル管・継手協会ブース



35年間経過の下水道掘上管



耐震配管モデル

今回の展示会では、塩ビ製可とうマンホール継手を使用した耐震配管モデルを展示し、また、初めて自在支管を実際に動かして可動性を体験することが出来ました。映像を見ると、地震の際にマンホールとの接続部のズレや破損防止するので耐震性が高いことがわかります

社会活動や生活の基礎を担うインフラ。きわめて長い期間にわたり、耐久性と信頼性が求められ、しかも耐震性や非常時対応も求められる下水道において、その敷設、システム作り、更新いずれにおいても塩ビ製品は引き続き大きな役割を担っていくことと思います。



リサイクル三層管 (右2本)  
リサイクルの発泡三層管 (左2本)

## ■ 随想

### ◇日本のお祭りシリーズ (その14) (終)

#### ー江戸川区幟祭りと御代田竜神祭りー

関東学院大学 織 朱實

4月5月の春祭りは、どこか穏やかな優しい感じのお祭りが多いのですが、真夏の太陽が照り付ける7月のお祭りは、やはり、勇壮なお祭りが多いですね。今回は、その迫力に驚いた江戸川区の<sup>のぼり</sup>幟祭りと長野県御代田の<sup>みよた</sup>竜神祭りをご紹介します。江戸川区にある浅間神社は、木花開耶姫命<sup>このはなさくやひめ</sup>を祀っている天慶元年(938年)に建てられた江戸川区でも最も古い神社だそうです。幟祭りも、江戸時代から続いている伝統のあるお祭りで江戸川区指定無形民俗文化財に指定されています。

浅間神社の境内に、氏子の皆さんが、富士山の山開きの7月1日に先立つ6月末日に早朝6時から集まり、大きな幟を10本順番に立てていきます。今年は、6月29日(日)に開催されました。幟の重さは、約1トン、長さは21mもあります。5つの氏子の地区ごとに、2本ずつ立てていきますが、200人くらいの人たちが引綱を引ながら、30分位かけて1本1本たてていきます。本当に、重たい幟なので、気を抜くと、左右にずれていってしまいます。大きな声で「もっと、東! もっと西」と掛声をかけながら、引綱を引いていきます。

早朝6時からの神事にはじまり、10本すべて立つのはお昼。ここまで大きな幟を10本も人力で立てていくお祭りは、全国でも珍しいそうです。このようにとても人手がかかるお祭りなので、一時期はクレーンで上げていたこともあったそうですが、55年に地元の若者により幟会が結成され、2年に一度人力であげる形式が復活したそうです。





今年は、何年かぶりの新しい幟がお目見えで（金銭的にももちろん大変だったと思いますが、それ以外にも幟を支えるだけの太さのある樹齢の木を見つけることや、飾り物の狛犬の細工をする職人さんを見つけることなど様々なご苦労があったそうです）、無事に立つか町内会のかたも心配していましたが、氏子全員の方で見事、10本の幟が青空の下で、勇壮にはためきました。

この時期は、雨も多く、雨の中泥だらけで幟をあげていくので、別名『泥んこ祭り』と呼ばれているそうですが、今年も早朝雨が降り、ぬかるんでいる中で幟たてが始められましたが、4本目くらいから、からっと晴れあがり、青空と幟のコントラストが見事でした。

もう一つ、こちらも迫力のお祭りは、長野県御代田町の竜神祭り。御代田の真楽寺には、諏訪湖に眠る竜神が現れたとされる池があります。竜神祭りの起こりは、兄弟にはめられた甲賀三郎が深い穴に落とされ、出口を求めさまよって、ようやくたどり着いた真楽寺の大沼の池で自分の姿を見ると恐ろしい竜になっていた。悲しみ荒れ狂う三郎は、三郎を探し歩きやはり竜となり諏訪湖に現れた妻と再会し、二人は諏訪湖に仲良く暮らした、という「甲賀三郎伝説」にあるそうです。



お祭りは、爆竹や太鼓の音が響きわたる中、とぐろを巻いた龍神が、ゆっくり赤い目を点灯させ、口から炎がでる（これが、すごい！本物の竜のようです）開眼の儀式、目覚めのシーンから始まります！全長45mもある男竜は50人もの男性の担ぎ手に担がれながら、勇壮な舞を舞い、沼に入ります。そのあとを女性30人の担ぎ手によるこちら35mもある姫竜が追います。

これだけの長さの竜が、ものすごいスピードで、口から火を噴き、目を煌々と輝かせながら舞い、境内の階段を駆け昇っていく迫力は本当に凄いです。女性も、この重さの竜をよくコントロールできるな、とびっくりします（階段がかなり急なので、降りてくるのは怖そうです）。爆竹の煙、勇壮な太鼓の音、深い鎮守の森の緑に、黒く沈む大沼、光る赤い目、長くとぐろをまく緑の竜。本当に民話の世界に迷い込んでしまったようなひと時です。





竜神祭りは今年 42 回目ということで比較的新しいお祭りですが、最初は小さな竜だったのが、どんどん活気づき、今では 45m という日本一の竜。お祭り以外にも町のシンボルとして、様々なイベントに参加しており、冬季長野パラリンピック閉会式のアトラクションにも参加したそうです。子供たちも小さい時から、竜神に親しんでいるようでお手製の竜を振り回している子供たちの姿も見られました。

⇒ [ブログはこちらから](#)

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

お盆が近づき、街のあちらこちらで地域のお祭りの音が聞こえてくるようになりました。小・中学生の姿より、お年寄りとお孫さんが連れ立っている方が多いように見えたのは、時間帯のせいだったのでしょうか。さて、織先生の「日本のお祭り」シリーズでは、さまざまな日本の風景をご紹介いただきましたが、残念ながら今回で終了です。先生は半年間イタリアに行かれますので、今後は、その様子をお伝えしていただくことにしております。ご期待ください。

次週はメルマガも夏休みを取り、次号は 2 1 日に配信させていただきます。(風蘭)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)